

# 「伝統は革新の連続」

## 富山新聞文化センター寄付講座

### 竹中銅器 竹中社長が講義

富山新聞文化センターの寄付講座「経営学の現場」

地域企業の経営者から学ぶ」は5日、富大五福キャンパスで開かれ、竹中銅器(高岡市)の竹中伸行社長

写真Ⅱが高岡鋳物からアルミ産業に至る歴史や業界の課題を語った。

竹中社長は、加賀藩前田利長が産業政策として鋳物師7人を招いたことが起源と解説。太平洋戦争直前

に金属類回収令が出されて打撃を受けた一方、戦後、鍋など日用品が売れ、やが



て花器など工芸品の需要が拡大した変遷を語った。

オンラインワンの市場を狙い、竹中銅器は銅像に注力していることを強調。購入頻度はピアノや墓石より低い、「在庫リスクがゼロで利益を出しやすい」と述べた。アニメキャラクタールなどの銅像も手掛け、設置した地域の魅力につながっているとした。

能登の穴水・中居で平安期から続いた鋳物づくりが大正期に高岡の鋳物に押されて産業として消え

た歴史に触れ、「高岡も放っておくと中居と同じようになる」と指摘。伝統とは革新の連続だとし、「高岡の鋳物も400年前は先端産業。世の中に受け入れられる物をつくり、その軌跡が伝統となった」と強調した。

寄付講座は富山新聞文化センター富山教室で2015年に開講した「富山マネジメントアカデミー」が母体。次回は7月12日にアルスホーム(富山市)の山海満也社長が講義する。